

# そよ風

第7号

今治市立立花中学校

## 人権・同和教育参観日「渋染一揆」

11月25日（金）に人権・同和教育参観日が行われました。たくさんの保護者の皆様の御参観ありがとうございました。御家庭で人権問題についての話をするきっかけになったでしょうか？…

そこで、今月号は2年生で学習した「<sup>しぶぞめいっき</sup>渋染一揆」を少し紹介します。

### ～渋染一揆～

財政難に苦しんでいた岡山藩は、1855年に「<sup>けんやくれい</sup>儉約令」を出しました。このとき、<sup>ひきべつぶらく</sup>被差別部落の人々に対しては、儉約令とは別に差別的な命令である「<sup>べつだんおふれがき</sup>別段御触書」を出しました。その内容は次の通りです。

（一部抜粋）

- 一、着物は模様のない<sup>しぶぞめ</sup>渋染・<sup>あいぞめ</sup>藍染しか着てはいけない。
- 一、雨の日、出かける時は、<sup>くりげた</sup>栗下駄をはいてもよい。しかし、村人にあつたら下駄を脱いであいさつをしなさい。遠くへ出かける時は、下駄もはいてはいけない。
- 一、年貢を納めている家の女性は特別にそまつな雨傘を使ってもよい。



渋染の着物

それまでも被差別部落の人に対する差別は厳しく、「3、4人殺してもお上は<sup>かみ</sup>気にもとめない。」「切り捨てごめん。」ということが当たり前の時代でした。そんな中、渋染・藍染に限定されれば、被差別部落の人だと一目で分かってしまいます。そうすると差別は悪化することは間違いなく、人々の生活が<sup>おびや</sup>脅かされ、生きる意味も見失ってしまいます。

これに対して、1856年被差別部落の人々は、年貢も納めているのに、あまりにもひどい差別だと立ち上がりました。53の村から、代表として1,500人も人が参加しました。そして、この命令を実行させませんでした。この一揆を起こした人々の<sup>うった</sup>訴えが認められたのです。

下は被差別部落の人々が訴えるときに作成した「<sup>たんがんしょ</sup>嘆願書」です。（一部抜粋）

私どもは、一般の百姓と同じように田畑を<sup>たがや</sup>耕して、年貢もきちんと納めていますのに、衣服まで差別されては、農業に<sup>はげ</sup>励む気持ちさえなくしてしまいます。百姓たちが捨ててしまった荒地までも耕し、女もぞうり作りなど内職に<sup>もんつ</sup>励み、少しでも年貢を多く納めるよう努めてきました。紋付きの着物はいけないと言われますが、私どもは新しい着物ではなく、安い古着を買って使っているから紋が付いているのです。どうして<sup>おふれがき</sup>厳しい御触書を出されたのでしょうか。本当になげかわしく思います。

江戸時代後半になると、封建制度が揺らぎ始め、幕府や藩は生活の中のあらゆることを規制する政策を打ち出しました。それに対して民衆は団結し、武器や道具を手に取り一揆などで激しく抵抗するようになりました。しかし、「渋染一揆」では、手に持っていたのは「弁当」のみです。非暴力を貫き、最後まで話し合いで解決しようとしていました。

今回の授業では、強訴を決意した人々の気持ち、一揆が成功した要因について考えました。以下は授業中に出た意見です。

**Q 反対する人や家族の気持ちを分かった上で、**

**強訴を決意したのはどんな気持ち？**

※「強訴」強硬な態度で相手に訴えかける行動

- 自分たちの世代で差別を終わらせたい。
- 自分の子や孫までこんな差別を受けるのは耐えられない。
- 家族と離れるのは嫌だけど、それよりも家族を想う気持ちの方が大きかったんじゃないかなと思いました。



**Q 「命をかけても譲るわけにはいかんこと」とは何でしょうか。**

- 生きがい、家族の命
- 自分や家族の幸せ
- 自分より大切にしたいもの、自分が死ぬよりもいやなこと。

**Q なぜこの一揆は成功したのか。**

- 怒りはたくさんあっただろうけど、それを抑えて、自分たちの苦勞やどれだけの被害がでるかなどを嘆願書で丁寧に説明したから。
- 訴え方が穏やかで藩の人と同じことを思えたから。
- 役人の中にも別段御触書がおかしいと思う人がいたから。



**Q 渋染一揆の授業を終えて**

- 良平たちみたいに、差別に正面から立ち向かった人がいたことを知りました。私も今なお残っている差別に立ち向かい、なくしていきたいです。
- これ以上、差別を続けさせてはいけないという村人たちの強い思いがあったからこそこの渋染一揆は成功したのだと思います。差別されている人の苦しみを改めて強く感じました。差別されている人たちが命をかけてまで差別をなくそうとがんばるのではなく、今、私たちが差別をなくす努力をする必要があると思います。

今回の授業「渋染一揆」について、御家庭で話をしてみてはいかがでしょうか。